

☀️☁️☀️ 余市町でおこったこんな話 ☁️☔️☁️

～その165 「全道一の激戦地

余市のボウリング業界」

余市町の埋もれた歴史等を紹介し、改めて余市町を再認識するコーナーです。

昭和40年代中頃、一大ボウリングブームがおきました。中山律子などスタープレイヤーが現れ、ボウリングをテーマにしたテレビドラマや大会がテレビ中継されて、ブームは更に盛り上がり、最盛期の同47（1972）年、国内にはおよそ3,700ものボウリング場がありました。

同46年4月18日の新聞に「今度は余市町に ボウリング場」と大きな見出しが見えます。記事には「後志地方にもボウリング旋風が吹き、倶知安、岩内の両町でそれぞれボウリング場の建設が進んでいるが、今度は余市町にもボウリング場が立つことが決まり、町内のボウリング・ファンを喜ばせている。～中略～（北後志地方のボウリング・ファンは）小樽市まで行かなければならず、土曜、日曜、祝祭日ともなると午前7時頃から行っても、3～4時間待たなければならないほどの盛況」とあります。小樽市ではこの年までに小樽東宝ボウル、日活ボウルなど4つのボウリング場が完成していて、最盛期には6つのボウリング場がありました（『創立80周年記念 小樽体育協会史』）。

町内初のボウリング場、余市ボウルは8月に黒川町にオープンしました。場所は黒川小学校に近い国道5号線沿いで、一部2階建ての建物に14レーンを備えていました。この年の余市商工会議所が発行した『商工名鑑'71』に余市ボウルの広告ページがあります。ABC（American Bowling Congress:アメリカボウリング協会）の規格に対応したレーンを備えていることを「売り」にしていました。

早朝ボウリングは朝7時から9時まで（6時には入場できたという声もあります）、日曜と祭日は朝6時から営業して、閉館は平日も日曜も夜の12時まででした。1ゲームは大人150円、ロードヒーティング完備の無料駐車場や卓球台もありました。

余市ボウル建設中の新聞をみると（同年5月1日付）、翌春16レーンを備えてオープン予定のクイ

ンボウル（朝日町、余市観光開発㈱）建設の動きも伝えてあります。関係者の談話として「（余市ボウルよりも）オープンが遅れてもこの分は、来年にならなければ発売されない米国製の最新設備を、道内はもちろん国内でも最初に導入する手はずが整っている」という関係者の談話も見えます。

年が明けて同47年の報道を見ると、クインボウルのほかに、浜中町の海水浴場近くのシーサイドボウル、富沢町の余市ボウル（後のニッカボウル）、ファミリーボウルの4つの建設予定があること、お隣り古平町では12レーンの古平ボウルが11月完成予定であることを伝え、「札幌、小樽にも劣らぬ過当競争」と指摘されています。しかし、関係者は「仁木、古平もエリアと考えているので人口は約4万人となり、これに夏季の観光客や海水浴客を考えれば十分にやっつけていける」と考えていました。

余市ボウルで楽しんだ女性たちの記事を見つけました（同47年2月4日付）。「スラックス、スカート、はては和服とさまざまなスタイルのママさんたち六十人が、二日、黒川町の余市ボウルでボウリングを楽しんだ。（女性達の声は）「一度ゲームをしてみたいが一人では恥ずかしくて…」「団体ならばなんのその」と、新年会を兼ねてどっと繰り出した。午後からは会場を町内の旅館にうつして、ジュース、ビールで乾杯」だったそうです。



▲ 写真：余市ボウルの広告（余市町商工会議所『商工名鑑'71』）

余市町史 第1巻～第6巻刊行のご案内

町では、平成27年度より「余市町史」の刊行を進めており、平成29年度をもって、全6巻が完結しました。町内の下記書店で販売をしておりますので、お買い求めの節はご利用ください。

【刊行済みの町史】

- | | |
|----------------|-----------|
| 第1巻：先史～近世（考古編） | 平成28年2月刊行 |
| 第2巻：近世1 | 〃 |
| 第3巻：近世2 | 平成29年3月刊行 |
| 第4巻：明治1 | 〃 |
| 第5巻：明治2・大正・昭和1 | 平成30年3月刊行 |
| 第6巻：昭和2・平成（年表） | 〃 |

定 価 各巻1,000円

取扱書店 塩田屋書店、大関書店

問合せ 企画政策課 町史編さん室（余市水産博物館内） ☎ 22-6187

役場では販売していません。左記の取扱書店でお求めください。

